

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

第 49 回定期総会 議案書



写真は 2025 年 11 月 7 日に完成した、小樽赤岩トイレ
足掛け 3 年の署名活動と粘り強い交渉により実現した

日時 : 2026 年 3 月 1 日 (日)

10 時～15 時 30 分

会場 : 札幌市教育文化会館・研修室 305

(札幌市中央区北 1 条西 13 丁目)

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

目次

式次第・・・・・・・・・・・・・ 1

第 49 回定期総会開催にあたって・・・・・・・・ 2

第 1 号議案 2025 年度活動報告

総括・・・・・・・・・・・・・ 3

事務局・・・・・・・・・・・・・ 5

組織部・・・・・・・・・・・・・ 11

遭難対策部・・・・・・・・・・・・・ 15

登山文化委員会・・・・・・・・ 20

自然保護委員・・・・・・・・ 22

海外委員会・・・・・・・・・・・・・ 23

連盟救助隊・・・・・・・・・・・・・ 25

第 2 号議案 2026 年度活動方針

総括・・・・・・・・・・・・・ 26

事務局・・・・・・・・・・・・・ 27

組織部・・・・・・・・・・・・・ 28

遭難対策部・・・・・・・・・・・・・ 29

登山文化委員会・・・・・・・・ 30

自然保護委員・・・・・・・・ 31

海外委員会・・・・・・・・・・・・・ 32

連盟救助隊・・・・・・・・・・・・・ 33

空沼岳万計山荘友の会の活動について・・・・・・・・ 34

資料 1 北海道道央地区勤労者山岳連盟規約・・・・・・・・ 36

資料 2 北海道道央地区勤労者山岳連盟 救助隊規定・・・・ 39

資料 3 救助隊内規・・・・・・・・ 40

第 49 回定期総会 式次第

1. 開会の辞 10 時

2. 会長あいさつ (佐藤信二会長)
来賓あいさつ

3. 議長団選出 10 時 30 分
 - ・ 資格審査委員、選挙管理委員の選出
 - ・ 総会成立の報告(資格審査委員会)
 - ・ 理事立候補受付開始(選挙管理委員会)
 - ・ 議長団選出

4. 議事開始
 - ①【第 1 号議案】2025 年度活動報告 (大野理事長) 10 時 35 分～
 - ②【第 2 号議案】2026 年度活動方針 (大野理事長)
 - ③日本勤労者山岳連盟 第 37 期総会報告 (別紙) 11 時 25 分～
 - ④【第 1 号議案】2025 年度決算報告および監査報告(別紙) (横関理事)
 - ⑤【第 2 号議案】2026 年度予算案提出(別紙) (横関理事)
 - ⑥【第 3 号議案】連盟費値下げと規約の改正 (別紙)
 - ⑦理事立候補の受付〆切(選挙管理委員会)

 - 昼休み (質問 BOX 受付) 12 時 00 分～13 時 00 分

 - ⑧午後の部開始にあたって 13 時
 - ⑨質疑応答、討論 ～14 時 30 分
 - ⑩総会成立の確認(資格審査委員会)
 - ⑪採決
 - ・ 【第 1 号議案】2025 年度活動報告の承認
 - ・ 【第 1 号議案】2025 年度決算の承認
 - ・ 【第 2 号議案】2026 年度活動方針の承認
 - ・ 【第 2 号議案】2026 年度予算の承認
 - ・ 【第 3 号議案】の承認
 - ⑫役員選挙(選挙管理委員会)
 - ⑬役員選挙報告(選挙管理委員会)

5. 議事終了
 - ・ 議長団退任
 - ・ 新旧役員あいさつ
 - ・ 閉会のあいさつ 15 時 30 分

※閉会后、第 1 回理事会、16 : 00 より懇親会を実施します

第 49 回定期総会開催にあたって

～5 年後、10 年後の道央連盟を考えよう

道央地区勤労者山岳連盟

事務局長 松村 智弘

北海道道央地区勤労者山岳連盟が、49 回目の総会を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。昨年 7 月、道央連盟創設期より理事長・会長としても活躍され、当連盟の発展に多大な貢献をされて来られました、安田治さん（79）が急逝され、中央勤労者山岳会主催で 8 月 21 日に偲ぶ会も実施されました。長年、道東連盟の会長をされてきた大谷享さんも、前日まではお元気だったのに突然亡くなれたというお話を道東の方から聞きました。これまで北海道連盟を支えて来られた、偉大なお二人の突然の訃報は非常に残念であり、北海道勤労者連盟にとって大きな損失です。

11 月に道央連盟の組織調査を実施しましたが、60 代、70 代の方が約 200 名ずつで全体の 56%を占めておりました。改めて先輩方の背中に支えられてきた組織だと強く感じ、これまで安全登山の知識、登山文化と山への姿勢を脈々と受け継いで来られました皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。

一方で、正直に申し上げますと、近年は会員の高齢化が進み、「この団体は 5 年後、10 年後どうなっているのだろうか」と不安を感じる場面も増えてきました。しかし、私はそれを悲観的な問題でなく、今だからこそ向き合える課題だと考えています。

本総会開催に向けて、事務局と理事会で様々な議論を重ねて参りましたが、今回の総会が、単なる活動報告と活動方針、予算を確認する場ではなく、「この団体を、次世代にどう手渡していくか」を考える。その第一歩となる時間になりたいと思っています。

そこで今回以下の 4 つの変更点を設けました。

- ① 会場の席のレイアウトを従来の対面式の『教室型』から、**お互いの顔が見える『口の字型』に変更**し、その席にはどなたが？どこの山岳会の方が座っておられるか、一目見てわかるように各テーブルに前垂れの設置を行います。
- ② 事前に配布した**質問状の受付と会場内に質問 BOX の設置**です。議案に関して質問がございましたら、ピンクの質問用紙に必要事項を記載し、お昼休みが終わるまでにご投函ください。午後の質疑応答の時間に回答いたします。質問だけでなく、こうなったら道央連盟はもっと良い方向に行くのではないかとといった提案でも構いません。
- ③ 今回、質疑応答の時間確保のため、全体的に従来の**プログラムから時間短縮**を行っております。これまで、今年度活動報告と次年度活動方針の発表は、各委員長が行って参りましたが、概要だけ理事長に一任してお話いただくことになりました。詳細につきましては、午後の質疑応答の時間に各委員長からお答えいただくこととします。
- ④ 事前申し込み制となりますが、16 時より会場を変え**懇親会を実施**いたします。理事だけでなく、代議員の方も是非ご参加いただければと思います。

今回総会に寄せられたご意見は、2026 年度の理事会で繰り返し話し合い、形にできるものはしていこうという気概であります。どうぞ忌憚ないご意見をお待ちしております。

2025 年度活動報告(総括)

はじめに

道央地区連盟は労山の①権利としての登山②登山の多様な発展③海外登山の普及④遭難事故の防止⑤自然を守る活動を実践しています。理事会では、各部・各委員会が労山の指針に基づいた事業計画を推進してきました。

他団体との共同事業では、昨年開通にこぎつけた「空沼岳・札幌岳の縦走路」の補強、労山会員をはじめ親睦団体の皆様に協力いただいた「小樽赤岩トイレ」が2025年11月に新しく完成しました。また、当連盟が会員以外の方々にも参加していただいている市民登山教室(札幌・小樽)、クリーンハイク、登山研究集会も開催しました。

親睦団体である「新日本スポーツ連盟北海道連盟」の“平和大好きランニング&ウォーク in 札幌”への協力、「心肺蘇生講習会」の後援なども行いました。

各山岳会の皆様には各種事業などにご理解・ご協力をいただき感謝する次第です。今後ともよろしくお願いいたします。

本年度の総括は次の通りです。

組織の状況について

本年は道央地区連盟での新規・退会の団体はなく、前年と同様に19団体となった。2025年度の全体の会員数は2024年度の734名から10名減の724名となった。内訳は前年から減少した団体が7団体、増減なしが6団体、増加が6団体となった。残念ながら、昨年の会員増加から今年は減少に転じた。道央地区連盟の目標である800名には遠く及ばなかったが、今後も会員同士の絆を深め退会者を減らす努力をしていく。

山岳遭難概況・遭難対策活動・山岳救助活動について

●国内の山岳遭難概況

全国の山岳遭難者数3,357人(2024年度警察庁発表)、遭難者は前年より211人減少している。

過去最多を記録した前年より若干減ったものの、数字は高止まりしている。死者・行方不明者数は300名(前年より35名減)、負傷者が1,390人(前年比10人減)だった。

遭難者のうち約半数が無事救助され、約4割が負傷状態で救出、1割弱が死亡か行方不明となっている。遭難件数は、2010年代初めには2000件を切る水準だったが、コロナ禍の一時期を除いてほぼ右肩上がりで増加傾向にある。近年はアウトドア活動が注目されて登山者が増えていることが背景にある。

●当連盟の遭難への対応

- ・救助隊は年3回の訓練を実施し有事の際に備えている。
- ・遭難対策部は事故報告やヒヤリハット報告を簡略したフォーマットを連盟各会に開示し、遭難事故防止の啓蒙活動を行っている。
- ・有事の際の救助・捜索活動は救助隊と遭難対策部が共同で動く体制をとっている。
- ・当連盟の2025年度の遭難事故報告 → 事故報告22件(前年比1件減)、ヒヤリハット2件、死亡事

故なし(全国連盟9件)

教育活動について

第54回北海道登山研究集会は11/15(土)～11/16(日)の2日間で開催。記念講演はニセコ雪崩ルールを作った新谷暁生氏を招き『北海道山岳遭難の歴史と雪崩発生メカニズム等』のタイトルで講演。各分科会では第1分科会「ganさん旅の歴史を語る～世界67ヶ国放浪中」、第2分科会「2025年遭難対策部・連盟救助隊の活動報告」、第3分科会「座談会・初めてのヒマラヤ体験」、第4分科会「藻岩山で植物の暮らしを学ぶ」をテーマで開催した。新谷氏の講演は今ではニセコルールとなったコース外滑走がどのようにしてできたのか！！苦労話を聞くことができた。各分科会も多様なテーマを取り上げて二日間の登山研究集会を終了した。

自然保護活動について

6/15(日)「クリーンハイク」を道内18か所の山域で開催、
6/7(土)に「登山道整備/塩谷丸山～天狗山縦走路穴滝コース」
・10/4(土)に「小樽自然の村登山口コース」の笹狩りを実施。
携帯トイレ関連で8/30(土)～8/31(日)の二日間で美瑛富士携帯トイレ用ブースの清掃パトロールに参加。
自然学習会として7/12(土)に大雪山姿見遊歩道補修経過観察・天女が原高層湿原木道補修の観察会を実施した。

他団体との連携について

北海道山岳団体交流会11/26(水)は北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道山岳/スポーツクライミング連盟・札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部・日本ヒマラヤ協会・山のトイレを考える会・北海道山岳ガイド協会・北海道雪崩研究会・北大山岳館・札幌登山道整備連絡協議会・NPO法人増毛山道の会の12団体、54名の参加者で行われました。
当交流会活動の小樽赤岩のトイレ建て替え案件が改築して11月完成までの経過報告を当連盟の松村事務局より報告をした。

2025年度 事務局活動報告

1. 2025年度の理事会の体制

下記の体制で総会活動方針に基づき取り組みました。

会長・海外委員会委員長	佐藤 信二	バビシェ・マウンテン・クラブ
副会長	小野 洋子	ハイキングクラブ みどりの風
副会長・組織部	沼田 祐司	山遊会 ル・レラ
理事長・新日本スポーツ連盟理事・登山文化委員長	大野 茂	ハイキングネットワークこだま倶楽部
副理事長・自然保護委員長、登山文化委員	伊吹 省道	地図とコンパスで歩く会
事務局長	松村 智弘	バビシェ・マウンテン・クラブ
事務局(会計)・自然保護委員会	横関 隆治	札幌ピオレ山の会
事務局(HP担当)・全国理事・北海道連盟理事長、遭難対策部	山本 裕之	札幌北稜クラブ
事務局・新日本スポーツ連盟理事(事務所使用管理担当)	奥井 千波	さっぽろ山遊会
事務局(理事会運営担当)・登山文化委員会	西條 寧	山遊会 ル・レラ
組織部長	杉野 悟	札幌山びこ山友会
組織部(札幌市民登山教室)	納谷 教生	百松山岳会
組織部(小樽市民登山教室)	森越 義昭	小樽勤労者山岳会
遭難対策部長・道央連盟救助隊長	大辻 英一	バビシェ・マウンテン・クラブ
遭難対策部	船坂 大樹	バビシェ・マウンテン・クラブ
遭難対策部	太田 那渚子	札幌中央勤労者山岳会
登山文化委員会	尾形 祐子	さっぽろ山遊会
自然保護委員会・全国理事	安東 仁志	札幌中央勤労者山岳会
自然保護委員会	深瀬 忍	スマイル・マウンテン・クラブ
自然保護委員会	中村 美雪	ハイキングクラブ みどりの風
自然保護委員会	荒井 由樹子	札幌山びこ山友会
自然保護委員会	田中 昭人	GROPE DE ROCHER
自然保護委員会	青山 愛	さっぽろ山遊会
海外委員会	辻野 健治	札幌北稜クラブ
海外委員会	辻野 治子	ラリーグラス
連盟救助隊(会計)	白石 泰之	札幌ピオレ山の会
連盟救助隊	井谷 良太	札幌中央勤労者山岳会
会計監査	小島 敏正	ハイキングネットワークこだま倶楽部
会計監査、北海道連盟会長	長水 洋	登攀倶楽部
地方の会との連絡	鎌田 雅年	函館山楽クラブ
	高橋 真吾	札幌中央勤労者山岳会
	佐藤 敏彦	スマイル・マウンテン・クラブ
	堀井 健二	札幌中央勤労者山岳会

2. 事務局活動

①理事会の運営

■毎月第三水曜日（19：00～20：30）に以下の全12回の理事会を連盟事務所で実施しました。

各理事会の参加理事数は以下の表を参照ください。

年度	②3月	③4月	④5月	⑤6月	⑥7月	⑦8月	⑧9月	⑨10月	⑩11月	⑪12月	⑫1月	⑬2月
2023	21	18	17	15	19	20	19	17	17	15	18	19
2024	22	27	20	15	21	17	20	18	21	22	16	20
2025	19	22	16	16	16	20	17	18	14	22	15	

2023年度は平均17.91名、2024年度は平均20名の出席者でしたが、2025年度は平均名18名と微減

■360度WEBカメラ（26000円）の導入

ハイブリッド理事会の定着から、ZOOM参加者により明瞭な音声と事務所参加者の表情を届ける必要があると判断し、9月の理事会で購入しました。



②理事会議事録の作成

議事録はExcelデータに集約し過去の議事録を閲覧しやすくしました。また、新たに理事会承認事項、継続審議事項の欄を設けました。

理事会	理事会承認事項	継続審議事項
第2回（3月）	<ul style="list-style-type: none"> ① 新日本スポーツ北海道連盟の理事に大野理事長、奥井理事を派遣で決定 ② 2025年度役員・理事の所属委員会決定 ③ 『道央連盟加盟団体調査アンケート』は実施する方向に決定（担当：松村） ④ 理事会懇親会は4月3日に実施で決定（担当：松村） ⑤ 市民登山教室の広告は4月10日の道新に載るように調整（担当：西條） ⑥ 今後事故報告書は遭難対策部大辻部長にもデータを送るようにしてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 『道央連盟加盟団体調査アンケート』の内容については事務局で吟味し、再度4月の理事会で提出する ② 連盟主催リーダー養成講座については、さらなる議論が必要 ③ 所属委員会未定の理事について希望配属先を聞き、配置決定
第3回（4月）	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の登山道整備は9月にやる方向で決定 ② 行事主催者賠償保険は市民登山教室とクリーンハイクの2件で申し込むことに決定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎月の遭難対策部からの事故事例報告（一報）の取り扱いについて ② 義経岩アクセス問題に関して、実行団体をどうするか？整備費2万円で足

	③ 『道央連盟加盟団体調査アンケート』は一部修正を加え、4月21日に発信で決定	りるのか再調査 ③ 室蘭工大ワングル部に技術指導を依頼されている件をどうするかはもう少し検討
第4回(5月)	① 義経岩林道整備は北海道フリークライミング協会と連携して進めていくことを確認 ② 上記の活動に対して連盟として助成金を支出することを確認	① 事故とヒヤリハットのボーダーラインについて遭難対策部で議論する ② 理事会でLINEを活用するか検討
第5回(6月)	① 役員・委員会名簿については個人情報の観点から今年から全員には共有せず、必要箇所のみ請求者に事務局から送ることとする(事務局)	② 事故とヒヤリハットのボーダーラインについて遭難対策部で議論する(遭難対策部) ③ 理事会LINEグループの作成。しばらく試運転(事務局) ④ 加盟団体アンケート結果を受け、具体的な内容の話し合いをする(事務局)
第6回(7月)	① 9月6日～7日に空沼岳～札幌岳の縦走路整備をする(事務局) ② 道新に登山文化委員会のことを紙面に載せてもらえないか聞く(登山文化委員会) ③ クリーンハイク時に使用するビブスを40着新たに作って各会に2着ずつ配布(自然保護委員会) ④ 北海道消防レスキュー大会への装備貸与を承認(遭難対策部)	① 道央連盟として技術交流集会の開催をどうするか議論を続ける(事務局) ② 理事会LINEグループの作成。しばらく試運転(事務局)
第7回(8月)	① 今月より理事会LINEグループを試運転から正式な連絡手段として活用していく(事務局) ② 連盟事務所を登山研究集会の宿泊施設として使わせてもらう(登山文化委員会)	
第8回(9月)	① 360度パノラマウェブカメラ(26000円)を購入(事務局) ② 来年以降も救助隊の装備を全国消防士大会で使用の許可(救助隊)	
第9回(10月)	① 全国連盟の登山研究集会には沼田副会長が出席していただくことで承認 ② 札幌市に対して空沼岳登山道を遊歩道に格上げしてもらえるよう要望 ③ 3月1日総会で新形式での連盟だよりの継	

	続か、停止してかを議題にあげる	
第 10 回 (11 月)	<ul style="list-style-type: none"> ① 道東連盟の総会に松村事務局長が出席する ② 2026 年度の登研の日程は 11 月 14～15 日で、記念講演会場は 4 階講堂に決定 ③ 登研の記念講演と第 1 分科会の動画配信承認 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2 月 14 日～15 日の全国連盟の総会の代議員 3 名、議案事項の意思統一を決める。 ② 定期総会の席のレイアウト、プログラム (時間配分)、質疑応答の仕組みなど考える ③ 次年度の登山文化委員会の体制をどうするか (事務局移管案もあり) ④ 2026 年度の登研の記念講演の演者は誰を呼ぶか
第 11 回 (12 月)	<ul style="list-style-type: none"> ① 2 月 14～15 日の全国連盟の総会の代議員として、長水会長、大野理事長、松村事務局長が出席 ② 全国理事に引き続き、山本理事、安東理事を推薦 ③ 全国連盟副会長に長水会長を推薦する方向で進める ④ 資料 4 の道央連盟定期総会の変更案を承認 ⑤ 道央連盟のホームページのサーバーを全国連盟のサーバーに移行する ⑥ 2026 年度の登山研究集会の基調講演の第一候補は大雪山・山守隊の岡崎さんで決定 ⑦ 市民登山教室の日程 (5/21, 28, 30 6/2) 決定。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 次年度の登山文化委員会の体制をどうするか (事務局移管案もあり)
第 12 回 (1 月)	<ul style="list-style-type: none"> ① 4 月からの連盟費を月 30 円値下げすることを総会の議案として提出することを確認 ② 第 49 回定期総会議案書案の承認 ③ 議案書を各事務局長まで郵送することを承認 (担当: 奥井理事) ④ 北海道山岳団体交流会の日程を 11 月 26 日 (三川屋会館) に決定 ⑤ 遭難対策部でビーコン訓練用マットに長さ調整できるベルト購入に 4000 円支出 ⑥ 次年度、登山文化委員会を事務局長責任のもと立て直していくことで合意 <p>救助隊で訓練に必要なチロリアンブリッジ用のプーリーなどの購入に 5 万円の補助 (次年度予算に組み込む)</p>	

③各部との連携について

新たに理事会 LINE グループを作成し、よりタイムリーに意見交換と情報共有できるようにしました。
連盟行事に積極的に参加し、親睦会等でも交流を深めました。

④連盟だよりの発行について

昨年に引き続き『連盟だより』を8月に発行しました。

279号 9月21日発行	
1面	第46回市民登山教室 活動報告
2面	クリーンハイク実施報告
3面	大雪山旭岳姿見遊歩道補修天女ケ原木道補修経過観察会
4面	道央連盟救助隊 春の救助訓練報告
5面	登山道新聞第3号（国立公園基金助成団体選出について）

3. 全国連盟、他連盟、加盟団体、他山岳団体に関する活動

- ① 各会会長・事務局長メーリングリストを通し、全国連盟からの情報や各委員会の情報を速やかに各会へ発信することができました。
- ② 『札幌登山道整備連絡協議会』の事務局として尽力し、空沼岳～札幌岳縦走路整備にお役に立てることができました。今年も9月6～7日に道央連盟で縦走路の笹刈りと、真簾沼～ヒョウタン沼間の短絡路の開削作業にも指導的立場で従事しました。
- ③ 11月26日開催の第16回北海道山岳団体交流会の告知と連絡調整。
赤岩トイレ建て替え工事完了の報告と札幌登山道整備連絡協議会の活動報告を行いました。
- ④ 4月22～6月10日にかけて加盟団体宛てに『所属山岳会調査アンケート』を実施しました。

4. 連盟ホームページの管理

今年度も山本裕之理事より連絡事項の適宜更新。
メールでの問い合わせにもきちんと対応しました。

5. 第49回定期総会の運営

従来の定期総会のプログラムと会場レイアウトの変更を提案しました。
各加盟団体との意見交換（質疑応答）の時間を多めに取ることにしました

6. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に道央地区連盟から理事として2名(大野理事長・奥井理事)を派遣。

【平和大好きランニング&ウォーク in 札幌】

9月27日(土曜日)に恒例の「ランニングとウォーク」2種目で開催しました。豊平川河川敷でランニング(個人・リレー)、ウォークは大通公園～豊平川河川敷を目指して実施しました。ランニングは「5キロラン&3キロリレー」の2種目、ウォークは「平岸～中の島～水車町～豊平川河川敷」を巡り昔の風景が残る街並みを散策した。

【心肺蘇生法講習会】

11月29日(土曜日)道央地区勤労者山岳連盟が新スポ北海道連盟の事業を後援する形で開催。今年も「身近にいる人が万一、意識障害や心肺停止等になったとき、あなたは何かができますか？」の同じテーマで開催した。講師には当連盟の遭対部と救助隊に元所属していた保村啓太氏(元バビシエマウンテンクラブ所属)をお願いをした。内容はAEDの操作・心臓マッサージの実践に係る所動作を学びました。現役の消防士ならではの的確な指導をしていただき来ました。聴覚の不自由な方の参加者にも親切な対応をしてもらいました。

【新年交流会】

本年度の交流会は令和8年1月27日(火曜日)に札幌市内の「ANA ホリデイ IN 札幌すすきの2階レストラン」で各競技団体の方々が参加して開催しました。道央連盟からは、大野理事長、杉野組織部部長、横関理事が参加しました。

交流会では各競技団体の近況報告等、「ピアノ&チェロのミニライブ」があり親睦を深めました。

2025 年度 組織部活動報告

1. 市民登山教室

(1) 第46回札幌市民登山教室

4月12日 北海道新聞朝刊に募集記事掲載

4月22日～24日 秀岳荘北大前店、秀岳荘白石店、石井スポーツ、好日山荘、
スポーツデポ、各区役所にチラシ置きや掲示など依頼

【募集期間】 4月21日～5月9日 27名申し込み。受講前キャンセル1名。1日目欠席でキャンセル1名。連絡なしの欠席2名。23名が座学①②出席。実習登山は、前もつての欠席2名、当日欠席連絡2名で、参加者は19名。(昨年度31名受講、登山29名)

登山教室の実施状況

項目・日時	場所	内 容
座学① 5月22日(木) 19:00～ 21:00	エルプラザ 4F 大研修室	開講の言葉(大野理事長)・オリエンテーション 「登山の計画と山の危険」 【講師】納谷教生さん(百松山岳会) 「基本的な登山の装備と選び方」 【講師】三鍋良平さん(NPO北海道雪崩研究会副理事長)
座学② 5月29日(木) 19:00～ 21:00	エルプラザ 4F 大研修室	「地形の見方・スマホアプリから読み取る情報」 【講師】伊吹省道さん(地図とコンパスで歩く会) *実習登山のミーティング 各会からのサポーターと一緒に
実習登山 5月31日(土) 9:00～ 14:00	小樽市 塩谷丸山 629m	登山行動の実践 ジオグラフィカを使つての地形や現在地の確認 6つのパーティーに分かれて行動 サポーター2～3名と受講者2～4名で1パーティー 編成。気温23℃・薄曇・風ほぼなし 早いところは9:00前に出発
交流会 6月3日(火) 19:00～ 20:45	エルプラザ 4F 大研修室	実習登山の反省と交流 パーティー毎に話し合い パーティー毎に発表してもらう 連盟所属の山岳会・クラブの紹介

受講者出席状況(全23名)

講座日時	5/22 座学①	5/31 座学②	5/31 実習登山	6/3 交流会
人数	23名	23名	19名	19名

受講者年齢構成(座学のみ受講者4名含む)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	合計
男	0	0	0	2	1	1	4
女	0	0	4	9	4	2	19
計	0	0	4	11	5	3	23

サポーターを派遣していただいた山岳会・クラブ

さっぽろ山遊会3名、百松山岳会5名（うち座学のみ1名）、札幌山びこ山友会4名、札幌中央勤労者山岳会1名、バビシェ・マウンテン・クラブ3名、スマイル・マウンテン・クラブ4名（うち座学のみ1名）

交流会での各山岳会・クラブの紹介

さっぽろ山遊会、百松山岳会、バビシェ・マウンテン・クラブ、札幌山びこ山友会、札幌中央勤労者山岳会、スマイル・マウンテン・クラブ、ハイキングクラブみどりの風、札幌ピオレ山の会の8つの会から活動の紹介をしていただいた。

(2)第34回小樽市民登山教室

- 4月15日 募集ポスター掲示、チラシ配布開始（総合体育館、勤労青少年ホーム、なえぼ公園自然館、市内スポーツ店、秀岳荘北大店他20件ほど）
- 4月16日 道新に募集記事掲載を依頼し、23日定員に近づいたため掲載をキャンセル
- 4月20日 小樽ジャーナルに募集記事掲載
- 4月24日 申込み9名になったため、ポスター、チラシ回収開始

日時・会場	内容
5月13日（火） 18：30～20：30 小樽総合福祉センター （築港ウイングベイ1番街4F）	開講と机上学習① ○登山のための準備 【講師】鈴木孝輝さん ○服装と持ち物 【講師】太田春栄さん
5月20日（火） 18：30～20：30 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 【講師】森越義昭さん ○実習登山の打合せ 【実習登山スタッフとの打合せ】
5月25日（日） 小樽天狗山 （お地藏さんコース）	実習登山 ○登山行動の実践 ○地図読みとコンパスの確認 3パーティーに分かれて行動 小雨が降る中出発、途中霧がかかり、展望がないため、第3展望台まで行かず天狗山

生涯学習プラザ レピオ (富岡1丁目)	山頂駅までの行動。受講生1名体調不良で ロープウェイで下山する。 交流会(下山後移動)
------------------------	---

受講者11名

男性4名(40代1名、50代3名) 女性7名(20代1名、40代3名、50代2名、60代1名)

机上学習 13日出席11名、20日出席10名

実習登山 25日 参加9名 スタッフ11名

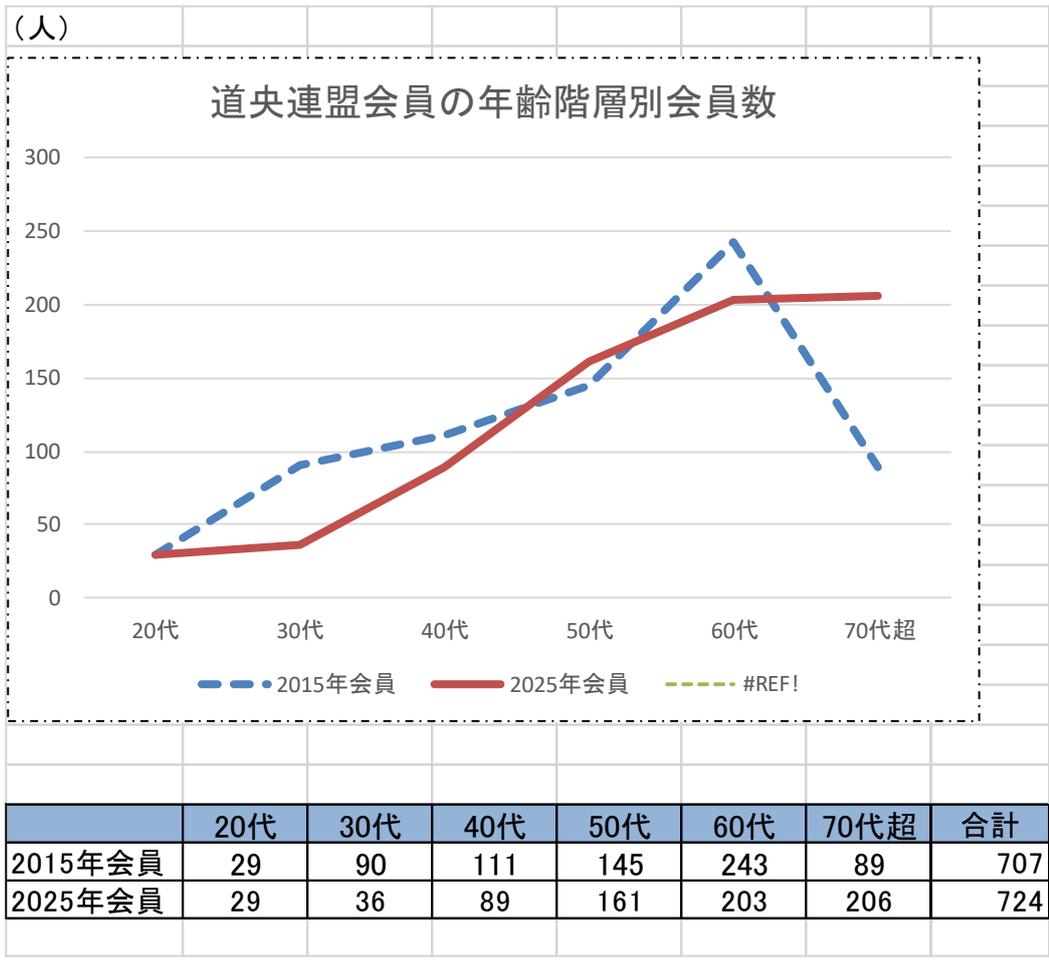
6月クリーンハイク、おためし山行などを経て5名が入会した。

2. 連盟組織調査

2025年11月末現在の各会の組織状況															
団体名	団体コード	2024年 会員数	2025年11月末会員数			今期中の増減		会員の年齢構成の状況						労山基金 加入者数	
			会員数	(男性)	(女性)	前年数 対比	入会者 数	退会者 数	20代	30代	40代	50代	60代		70~
1 小樽勤労者山岳会	011101	35	35	22	13	0	6	6		1	2	7	9	16	29
2 GROUPE DE ROCHER	011201	8	8	5	3	0	0	0			1		7		8
3 札幌中央勤労者山岳会	011301	162	154	89	65	-8	16	24	16	11	21	33	41	32	130
4 札幌ピオレ山の会	011302	38	40	20	20	2	5	3			4	8	16	12	40
5 札幌北稜クラブ	011303	40	49	33	16	9	10	1	8	5	10	9	11	6	45
6 札幌山びこ山友会	011304	53	57	26	31	4	8	4	1	1	6	9	20	20	57
7 札幌登攀倶楽部	011305	9	9	8	1	0	0	0			1	3	3	2	9
8 同人ラリーグラス	011402	12	14		14	2	2	0		2	4	5	3		14
9 ハイキングクラブみどりの風	011601	34	30	6	24	-4	2	6				6	8	16	30
10 百松山岳会	011602	43	47	27	20	4	5	1		1	1	6	12	27	38
11 ハイキングネットワークこだま倶楽部	011603	13	11	5	6	-2		2				3	3	5	11
12 函館山楽クラブ	011604	62	61	19	42	-1	6	7				3	15	43	54
13 パピシエ・マウンテン・クラブ	011605	98	96	50	46	-2	8	10	3	11	25	41	11	5	96
14 山遊会ル・レラ	011311	4	4	2	2	0	0	0					3	1	4
15 さっぽろ山遊会	011312	53	40	13	27	-13	4	17			2	5	21	12	38
16 同人スंक	011403	4	4	2	2	0	0	0						4	4
17 スマイル・マウンテン・クラブ	011313	52	57	32	25	5	11	6	1	2	10	20	20	4	57
18 リベルテ	011901	12	6	4	2	-6	1	7		1	2	3			6
19 地図とコンパスで歩く会	011404	2	2	1	1	0	0	0		1				1	
総合計		734	724	364	360	-10	84	94	29	36	89	161	203	206	670

○会員数について

- ・2025年は前年比10名減の724名だった。ここ10年を見ると、700人台前半で増減を繰り返しており、“ほぼ横ばいで推移した10年”といえる。
- ・北海道は急速に人口減少が進んでいるが、札幌市はこの10年、1,900千人台で推移しており、当連盟の会員数は札幌市の人口と同じ傾向を示しているように見えます



○会員の年齢階層別の状況について

- ・会員数は、ここ数年 60 歳台が最多年齢階層でしたが、2025 年はついに 70 歳台が僅かですが、最多年齢層となりました。
- ・60 歳以上の会員は 409 人で、全会員数に占める割合は 56.5%。
- ・一方で、40 歳台以下の世代は、この 10 年で 230 人から 154 人へ大きく減少しました。特に 30 歳台の減少が顕著に見えます。

これからも人口動向は高齢化と人口減少が進みます。その中で、各年齢階層でそれぞれのニーズに対応した登山活動を展開することができるか、連盟活動がそれを下支えしていくことが大切と言えるのではないのでしょうか。

2025年度 遭難対策部 活動報告

部員構成

部長 大辻（バビシエ） 部員 山本（北陵）・太田（中央）・船坂（バビシエ）

1. 事故報告書の取り扱いについての見直し

毎月の理事会にて報告されている事故報告についての見直しをおこなった。理事会での報告は、全国連盟 HP で公表されている全国事故一報データをもとに報告していくとともに、道央連盟でおきた事故詳細については各会からの事故報告書が提出された事故を報告していく。

各会からの報告を促すため、ヒヤリハット報告の書式を簡略化したフォーマットに変更。

事故報告書のフォーマットはこれまでの書式を活用していく。

2. 第54回 北海道登山研究集会への取り組み

① 11月16日（日）第二分科会の開催

各山岳会の計画書や下山連絡のシステムなど、安全管理体制についての事前調査を行った。

そのデータをもとに、当日は中央労山・バビシエ・マウンテン・クラブからの代表者とともに、それぞれの仕組みや問題点についての話し合いをおこなった。

代表者からの説明は、データからは読み取れない貴重な話があり、今後の安全管理体制の仕組みを考える上で、とても貴重な分科会となった。

② 登山研究集会論文集の発行

各山岳会の計画書・下山確認方法などのアンケート

バビシエが会員向けに配布している携行用遭難対策マニュアルの一例

2025年 全国死亡事故・道央事故報告・ヒヤリハット報告

連盟救助隊・春季訓練内容の報告

3. 遭難事故報告・ヒヤリハット報告

2025年 道央連盟での事故報告は22件 ヒヤリハット報告は2件

2024年度の事故報告は23件

積雪期9件・無雪期9件・登攀2件・ジム1件・海外2件

2025年の事故報告は22件

積雪期8件・無雪期6件・登攀4件・ジム3件・海外1件

全国連盟で報告されている連盟会員の死亡事故は9件（行方不明を含む）

各詳細報告は別添付

4. 第31回 雪崩研究会との共同主催：北海道雪崩講習会への取り組み

2025年11月30日（日） 開校式・総合理論講座

2026年1月14日（水） 実地実習前ミーティング・座学

2026年1月24日（土）～25日（日） 道央 中山峠周辺

基本38名 中級17名 上級5名

2026年1月31日（土）～2月1日（日） 道東 日勝峠周辺 2名

2026年2月7日（土）～8日（日） 道北 グリーンパークびっぷ周辺 6名

全道合計 68名

5. 【2025年度総括】北海道雪崩講習会開催30年記念誌の発行について

本年度は、北海道雪崩講習会が開催30周年を迎えた節目の年であった。この機会を捉え、講習会の歩みや理念を整理・記録し、将来に継承することを目的として、30周年記念誌の編集作業に協力した。

編集作業を進める過程で、北海道雪崩講習会の正式な開催主体が「北海道道央地区勤労者山岳連盟」であることを改めて確認するに至った。これまでの慣行や実務上の関わりから、北海道勤労者山岳連盟主催事業として認識されてきた経緯があるが、今後は開催主体の位置付けを整理したうえで、関係団体が連携して事業を進めていく必要があると判断している。

(1) 北海道雪崩講習会について

北海道雪崩講習会は、1977年2月5日から6日にかけて、無意根山荘において道央地区連盟救助隊の救助訓練として第1回が開催された。その後、道央地区連盟遭難対策部の事業として引き継がれ、継続的に実施されてきた結果、2025年2月をもって開催30周年を迎え、現在に至っている。

(2) 記念誌編集委員会

編集長：山本（遭難対策部・北稜）

委員：小山（ピオレ）、松浦（山遊会）、納谷（百松）、吉成（雪崩研究会会員）

(3) 予算

予算額は190,000円とし、道北・道東地区連盟も関わる全道的な事業であることから、北海道勤労者山岳連盟が支出する。

(4) 2025年度の活動

2025年度の活動として、記念誌掲載原稿の収集および編集作業を実施した。

2025年 道央地区 事故・ヒヤリハット報告

事故報告 22件					
	発生日	山岳会名	山域・発生箇所	発生状況	障害の程度
1	2月21日 14:00頃		チセヌプリスキー場・リフト周辺	45歳女性会員。山スキーで、下山時、凹凸斜面でバランスがとれずに転倒し、右足を捻った。翌日右膝内側に痛み。	右膝関節内側側副じん帯 損傷
2	2月23日 10:00頃	同人ラリーグループ	ワイスホルン 山頂手前のピークから南斜面	60歳女性会員。山スキーで、雪も降っていて視界不良。滑走開始直後は視界あったが、じきに視界がなくなり転倒。右膝を捻ってしまった。	前十字靭帯断裂 剥離骨折
3	3月7日 13:00頃	さっぽろ山遊会	百松沢山 源八沢ルート550m付近	66歳女性会員。積雪期登山で、下山中に滑って転倒し、右足踝を雪に隠れていた氷にぶつけた。痛みと腫れがあるので、踝を湿布し、患部固定して登山靴を履いて痛み止めを飲んだ。パーティーでリュック等を分散して持ち、事故者はゆっくりと自力下山した。下山後に整形外科を受診した。	右足関節外踝骨折
4	3月16日 07:30頃	バビシエマウンテンクラブ	吉凶岳 標高750mの沢地形付近	50歳男性会員。山スキーで、3人パーティーで早朝4時に夕張山地にある南富良野町金山から吉凶岳を目指して入山。十梨別林道から羽衣橋を通りポントナシベツ川沿いの林道を經由してC.O. 922mのボコ野下を先頭でトラバース中に木の枝を目に強くぶつかった。その時に枝先が目に入ったため眼球を痛めた。	転移先病院の診断前なので不明
5	4月17日 13:00頃	バビシエマウンテンクラブ	ニセコアンヌプリ 頂上直下 北斜面	29歳女性会員。山スキーで下山開始後、滑走時にターンに失敗して転倒。その際に右膝を痛めた。	右膝蓋骨脱臼
6	4月19日 10:30頃		義経岩 バチアタリルート	27歳女性会員。義経岩バチアタリルートを登攀中に、手織り落ちをしてフォール。グラウンドフォールとなり、お尻を強打した。	尾骨の骨折
7	4月22日 11~17時	札幌山びこ山友会	中山峠 蓬萊山~幌滝山ピストン	70歳女性 山スキーの練習中、東斜面に下り迷う。 数時間後に230号線に自力で戻る。 怪我なくおえたが、道警・消防によるヘリ捜索が行われた為、当該会より事故報告としての提出。	なし
8	7月20日~7月21日	スマイルマウンテンクラブ	南暑寒岳登山道	5時20分に南暑寒荘登山口を出発し、途中雨竜沼展望台で休憩をとり、7時50分ごろ事故発生場所にて2回目の休憩中、半分崩壊した(木が朽ちて斜めに傾斜していた。)見晴台の上部にて、湿原を見下ろして写真撮影をしていたところ、蜂が首筋に止まり、それを追い払ったときにバランスを崩して転倒。その際に右手首を見晴台に強く打ち付けた。事故発生当時は痛みを感じたものの、指も動き、腫れもあまり見られなかったので、打撲であると判断し登山を継続した。翌日も腫れと痛みが効かなかったため、夕方に病院を受診して骨折が判明。	右前腕尺骨骨折
9	7月27日	ハイキングネットワーク こだま倶楽部	大平山 泊山コース	3人パーティーでの無雪期登山。霧雨の中を下山中、急斜面の濡れた笹で滑り転倒。左手を強打した。	左手首 橈骨遠位端骨折 尺骨茎状突起骨折
10	9月7日	バビシエ・マウンテン・クラブ	奥立岩 銀盤 フリークライミング	銀盤ルート、1.5m位の棚に上がって左上1ピン目にヌンチャクをかけようとしたところ、右足が滑り、左手で支えきれず地面に滑落した。	右臀部打撲、顔面打撲
11	9月20日 14時半頃	バビシエ・マウンテン・クラブ	芦別岳 旧道~新道 周回コース	緩やかな下り坂を駆け足で下っていたところ、つづら折りとなる手前でスピード落とそうとしたところ足を滑らせ体勢を崩した。 体勢の立て直しと、スピードを殺すために谷側の藪を掴んだが、藪の厚みが数センチしかなく、勢いを止められずに頭から藪に突っ込み転落となった。 藪の先は2mほどの落ち込みとなっており、頭側から落ち受け身を取るために左手を地面に付き一回転した後下にいた同行者に受け止められ停止した。 藪の先は2mほどの落ち込みとなっており、頭側から落ち受け身を取るために左手を地面に付き一回転した後下にいた同行者に受け止められ停止した。	左薬指の斜骨折
12	9月22日 14時頃		天人峽	40代男性 登攀時、手がかりにした岩の崩壊とともに、墜落。途中にあるテラスに体をぶつけ、体の痛み。裂傷あり。	

13	9月23日 13時頃	さっぽろ山遊 会	昆布岳	60代女性 下山時600m付近、最後尾を歩いていた事故者は土壌が粘土質の所に足取られ、滑って右足を九の字に屈曲して転倒した。事故発生時は登山靴で固定されており、痛みもあまり感じず、捻挫だと思いそのままゆっくりと自力下山した。下山後足を見てみると腫れており、テーピング固定とシップを施行した。下山後病院を受診した。	右足関節外顆骨折
14	10月9日 11時頃		谷川連峰・巻機 山・武尊・荒沢岳	70代男性 肩の小屋へ向かう岩場にて1800 m 岩場で強風に煽られバランスを崩し転倒時に手を突いたが反動で捻転した際、右肩を捻じた。	右肩捻挫
15	10月11日 14時頃		知内岳 ツツラ沢 沢登り	40代男性 下山時、転倒。足指を負傷。	足指 負傷
16	10月12日 13時頃		海外 チュル ーイースト6429m 北東稜	60代男性 10/11 C2(5,800m)からHC(5,300m)經由で下山 途中のヤクカルカ(3,000m)テント泊時右手指4本の指先の変色と甲の水膨れを確認した。翌日マナン下山後受診。凍傷で早急に設備、薬品のあるカトマンズへ移送し処置しないと切断になるとの診断。ガイド、代理店の手配でカトマンズの病院へ当日ヘリ搬送された。凍傷は10/10アタック時に発症と思われま す。HC(ハイキャンプ)からは、ネパール人ガイド3名同行していま す。	右手指4本凍傷
17	11月5日 19時半頃		クライミングジム	60代 男性 ボルダリングジムにて、垂壁で右足を支点に左上方向へランジを試み、左手でホールドを取りに行ったが失敗して落下した。その際、落下地点にあった大きめのホールドに左足を強くぶつけ、左アキレス腱を断裂した。	左アキレス腱断裂
18	11月8日 13時頃		函館山 南壁	20代 男性 リードクライミング中に足が滑り1m程度フォール、その際に左肩に負荷がかかり、脱臼のような症状になる。数日後、痛みがあるため病院にて診察を受けたところ非常に脱臼しやすい状況になっていると診断を受ける。	左肩関節亜脱臼
19	11月12日 時刻不明		釧路 体育館	40代 男性 人工壁をクライミング中にフォール その際、ホールドに手が残り、左肩と上腕に激痛。痛みが続いたため受診。	上腕三頭筋 筋断裂
20	11月18日 15時頃		野岳	60代 女性 フリークライミング中、1ピン目かけようとして右足に乗り込もうとして滑って右足から落下。	右踵骨骨折
21	12月14日 時刻不明		札幌岳	20代 男性 空沼岳登山口からの2泊3日の縦走 3日目に下山ルートの冷水沢にて沢に滑落。天候で視界も悪くピバークを決行。12時過ぎに道警にて救助。	右足の怪我
22	12月21日 時刻不明		中山峠	70代 女性 中山峠スキー場870m付近を目指す 登山開始30分後 845m付近で林道を移動中 氷で滑り転倒し左膝を強打	左膝打撲

2月2件 3月2件 4月3件 7月2件 9月4件 10月3件 11月4件 12月2件

ヒヤリハット 2件					
1	8月16日～8月 17日	スマイルマウ ンテンクラブ	増毛山地・郡別岳	山行予定時間がC1のテン場まで6時間遅延していた。既に日没になっていたことから、沢の渡行をヘッドランプを点けて降りなければならなくなり、足元の不安定さからくる転倒の危険性の増大と枝沢、作業道の検索に迷いが生じた。	
2	11月22日 9時頃	スマイルマウ ンテンクラブ	札幌市 三角点名 土場	下山中 突然直径10cm長さ4m位の立木が倒れ、前から4番目位を歩いていたメンバーの頭に当たった。根本が腐っていたので、私達の歩いた振動で倒れたと思われる。 ☆今後の対策：周囲への注意 帽子の大切さ(今回厚手の毛の帽子を被っていたので怪我が無かった)	

2025年 全国死亡事故報告

2025年 全国死亡事故 9件													
地方連盟	年齢	性別	事故発生日	事故発生日	死者人数	都道府県	山名	場所	山行形態	事故原因	事故状況	傷病名	
1	長崎	60	女性	2月16日	11時30分頃	1	長崎県	多良山系	経ヶ岳～金泉寺	積雪期登山	転・滑落	多良山系縦走（黒木～経ヶ岳～金泉寺～黒木）、金泉寺手前30分の岩場で転倒滑落したと思われる。時刻は11時30分と推定。積雪期だが積雪なし。通常訓練で何度も行く近場の山で、急に思い立ち登山されたと思われる。クラブに計画書は提出されていないが、家族に2月16日付けで計画書を送っている。	滑落死亡
2	静岡	60	男性	4月26日	14時40分頃		長野県	涸沢	涸沢ヒュッテ手前の登山道	積雪期	病気	14時40分頃、登ってきた手塚さんが「ウッ」か「ア」のような声を出して倒れた。後続の登山者がこれを見て山岳救助隊を呼び、15時20分へりて搬送。相澤病院にて16時33分に死亡を確認。	心疾患と見られる
3	岡山県	69	女性	5月3日	11時30分頃	20	岡山県	広戸仙	ふるさとコースのシャクナゲ滝を過ぎた傾斜地	無雪期登山	転・滑落	シャクナゲ滝の沢を通過後、傾斜地のトラバサ道を通過中に登山道から沢に転落。1115m付近 沢中にうつ伏せ状態の遭難者をリーダーが発見。他の救助者とともに人工呼吸を開始。約1時間にへりて救助隊が到着。病院に搬送。	多発外傷のため死亡
4	山梨県	68	男性	7月21日	-		山梨県～長野県	甲斐駒ヶ岳・日向山	川・鞍掛沢～乗越	沢登り	転・滑落	駒ヶ岳の頭付近に上り詰める急な尾根で沢床まで15mほど転落。17時半頃県警へりてピックアップ。最初に墮ちた地点より20～30m離れた場所でピックアップされたように見えたので再転落の可能性あり。	脛骨骨折か他多数の損傷・死亡。
5	東京都	49	男性	8月16日	10時00分頃	2	長野県	北徳高岳	滝谷クラック尾根	登攀	転・滑落	滝谷クラック尾根の1ピッチ目をセカンドで登攀中、上部で落石が発生し頭部に直撃。更に落石によりハーネス手元のロープが切断し60m程転落した。	多発外傷により死亡
6	東京都	78	女性	8月22日	19時00分頃	2	北海道	カムイエクウチカウシ山	内川七ノ沢出会付	沢登り	その他	22日夕刻に増水した札内川を渡渉している最中に溺死したものと推定される。23日14時に遺体発見。事故発生日時も推定。	溺死
7	富山県	69	男性	9月12日	11時15分頃	5	富山県	北ア 剣・立山周辺	劔岳	無雪期	転・滑落	9月12日（金）室堂より別山乗越を経て劔沢へ下って行く登山道から11時15分頃に約30m滑落。	脳挫傷により死亡
8	愛知県	60	女性	10月3日	11時30分頃	3	富山県	北ア 剣・立山周辺	劔岳	無雪期	転・滑落	早月尾根約2800m地点、はしごを下降中に落下、そのまま約70m滑落。入院後意識不明10/10顔顔様より電話有。10/14死亡	全身打撲（肋骨・腰骨骨折）・脳内出血により死亡
9	東京都	33	男性	12月25日	23時30分頃	2	富山県	北アルプス	水晶岳	積雪期登山	その他	12月25日 水晶小屋南側ワリモ沢支流源頭部に雪洞泊をおこなう。同日23時半頃、トイレのため雪洞を出た同行者が戻らない事から事故発覚。インリーチにてSOS発信し救助要請。通報者は28日にへり救助される。へり・地上部隊での捜索が行われたが発見に至らず。ココへりはザックに付けたままの為、未所持で行方不明となった。	行方不明

2025 年度 登山文化委員会 活動報告

今年度は、前任者の残した資料等を参考にしつつ試行錯誤を重ね、第 54 回登山研究集会の開催に至った。一定の体裁は整えることができたものの、講師各位との事前のすり合わせが十分とは言えず、運営面において反省点の多い登山研究集会となったことは否めない。

これらの課題を踏まえ、次年度は企画段階から関係者との情報共有と意見交換をより丁寧に行い、内容・運営の両面において一層充実した登山研究集会となるよう改善を図っていききたい。

1. 登研実行委員会の開催

(1) 構成メンバー

①連盟理事：大野（こだま倶楽部）、伊吹（地図とコンパス）、尾形（山遊会）、西條(ル・レラ)

②登研委員：城戸（百松）、佐藤（山びこ）、岡崎（山びこ）、高田（山遊会）、渡邊（山遊会）、佐々木(みどり)、桑原(北稜)

(2) 登研実行委員会の日程：基本的には第 1 水曜日にエルプラザにて随時開催、グループ LINE による情報共有、意見交換等を行った。

2. 論文報告集の発行

各分科会のテーマに基づく報告文・紹介文を基に構成し、これをもってページ総数を確定した。配布は全会員に加え、一般参加者全員を対象に無償とし、登山研究集会（登研）の対外的な認知向上を図った。また、カラー印刷による視覚的効果についても従来どおり継続し、単なる論文集ではなく、登研全体を俯瞰できる総合プログラムの位置付けとして編集した。一部原稿のメ切超過といった課題はあったものの、登研の開催日が 11 月中旬であったことから、10 月下旬までに地方会員を含む全会員への配布を完了することができた。

発行数は例年同様 1000 部。会員には下記のように配布

・小樽勤労者山岳会 35 ・GROUPE DE ROCHE 8 ・札幌中央勤労者山岳会 162 ・札幌ピ
オレ山の会 38 ・札幌北稜クラブ 40 ・札幌山びこ山友会 53 ・札幌登攀倶楽部 9 ・山遊会 ル
レラ 4 ・さっぽろ山遊会 53 ・スマイルマウンテンクラブ 52 ・同人ラリーグラス 12 ・同人
スルク 4 ・地図とコンパスで歩く会 2 ・ハイキングクラブみどりの風 34 ・百松山岳会 43 ・ハ
イキングネットワークこだま倶楽部 13 ・函館山楽クラブ 62 ・バビシエマウンテンクラブ 98 ・
リベルテ 12 (道央地区連盟合計 734)

・釧路勤労者山岳会 36 ・帯広勤労者山岳会 42 北見勤労者山岳会 11 (道東地区連盟合計 89)

3. 記念講演会

理事会の承認を得て、講師の手配および講演内容の設定準備を進めた。今年度のゲスト講師には、「ニセコルール」で有名な新谷暁生氏を迎え、「北海道山岳遭難の歴史と雪崩発生メカニズム」と題した講演を実施した。新谷氏の山と向き合ってきた長年の経験を、あたたかく分かりやすい語り口で伝えていただいた。講演では、自身の北海道における山岳遭難の歩みと雪崩発生の背景が丁寧に解説され、参加者は自身の山行と重ね合わせながら聴講していた様子が印象的であった。安全登山への意識をあらためて深める、有意義で温度のある講演となった。

(会員 70 名、一般 40 名、合計 110 名)

4. 第 53 回登山研究集会参加者数

各分科会は、従来と同じくそれぞれの担当部会にて責任をもって実行手配。

第 1 分科会(登山文化部門)

「gan さん旅の歴史を語る～世界 67 ヶ国放浪中」岩村和彦講師

(会員 49 名、一般 45 名、合計 94 名)

第 2 分科会(遭難対策部門)

「2025 年遭難対策部・連盟救助隊の活動報告」道央地区連盟遭難対策部

(会員 24 名、合計 24 名)

第 3 分科会(海外登山部門)

「座談会 初めてのヒマラヤ体験」道央地区連盟海外委員会

(会員 32 名、合計 32 名)

第 4 分科会 (自然保護部門)

「藻岩山で植物の暮らしを学ぶ」札幌自然調査官 丹羽真一講師

(会員 43 名、一般 5 名、合計 48 名)

記念講演会 110 名、分科会 198 名 計 405 名 (前年対比 97 名減少)

今年度からの記念講演の講師については、話題性よりも北海道の登山に直結する実務的・実用的な内容を重視するという理事会決定に基づき役割と位置づけを変更した結果、記念講演の聴衆が減少したものと考えられる。

2025年度 自然保護委員会 活動報告

下記の通り報告いたします。

1. クリーンハイクを6月15日第3日曜日に実施しました。

参加団体：17団体、18カ所の山域で実施

参加人数：会員145名、一般24名、合計169名

ゴミ収集：可燃ゴミ22.5kg、不燃ゴミ41.3kg、合計63.8kg

マナー袋：230袋を一般登山者に配布しました。皆さまのご協力に感謝いたします。

2. 自然学習交流会の企画

(1) 大雪山・山守隊の登山道整備イベントに参加

残念ですが日程調整ができず参加できませんでした。

(2) 高山植物観察山行

7月12日(土)大雪山姿見遊歩道補修経過観察及び天女ヶ原高層湿原木道補修の観察会を実施しました。

参加者：札幌山びこ山友会4名、スマイル・マウンテン・クラブ2名、札幌ピオレ山の会1名、地図とコンパスで歩く会1名、合計8名。

最高の天気恵まれ遊歩道の補修実態と高山植物の繁殖の経過観察及び木道補修の実態を観察できました。法面に石を組む効果がよくわかりました。

(3) 美瑛富士携帯トイレ用ブースの清掃パトロールに参加

8月30日(土)～31日(日)国設白金野営場ケビン泊。

参加者：札幌山びこ山友会11名、札幌ピオレ山の会1名、地図とコンパスで歩く会1名、ボランティア3名、合計16名。

(4) 登山道整備 塩谷丸山～天狗山縦走路の笹刈

第1次笹刈：実施日.6月7日穴滝コース

参加者：札幌山びこ山友会5名、百松山岳会3名、スマイル・マウンテン・クラブ2名、札幌ピオレ山の会1名、地図とコンパスで歩く会1名、ボランティア2名、合計14名。

第2次笹刈：実施日.10月4日自然の村登山口コース

参加者：札幌山びこ山友会3名、スマイル・マウンテン・クラブ2名、札幌ピオレ山の会2名、百松山岳会1名、札幌登攀倶楽部1名、地図とコンパスで歩く会1名、合計10名。

3. 登山研究集会第4分科会(自然保護部門)

11月16(日)に講演会を実施しました。

講演者：さっぽろ自然調査館 丹羽真一さん

テーマ：「藻岩山で植物の暮らしを学ぶ」

場所：札幌教育文化会館4階講堂

時間：午後1時～2時30分

参加者：48名

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

2025年度 海外委員会 活動報告

コロナが5類に移行してから今年で3年経過しました。制限されていた海外旅行の規制も解除され、トレッキングをはじめ徐々に海外登山も増えてきています。それでもネパールでの様子を見るとまだまだ日本人のトレカーや登山者は非常に少なく、コロナ以前には程遠いのが実情のようです。今年は各山岳会での企画もちらほらと聞きますが、1990～2000年頃の活発な時期とまではいかないが、時代が変わるとともに新しい人達が台頭してきているようです。また、トレッキング、6000m峰、さらに7000m、8000m峰を目指し、一層活発になることを期待しております。

1. 活動日誌

4月 北海道海外登山研究会後援

11月 北海道登山研究集会 第三分科会（海外登山部門）開催

2. 北海道海外登山研究会

4月には北海道海外登山研究会がコロナ後、3年続けて開催されました。同登山研究会は、道内で唯一海外登山を研究する団体です。各山岳団体の枠を超えた任意団体であり、海外委員会では研究会の運営等を支援しています。昨年は節目の30回を迎え、講師に日本登山界の重鎮である重廣恒夫氏を迎え「重廣恒夫のヒマラヤ登山塾」と題しての講演がありました。重廣氏はチョモランマ北壁、K2、カンチェンジュンガの世界高峰のトップ3を登頂するなど、日本のヒマラヤ登山の先駆者であります。現在でもグレート・ヒマラヤ・トラバースなど現役でヒマラヤを登っています。地元の関西ではヒマラヤや国内の登山教室を開催し、安全登山の啓発や自立した登山者の養成を行っています。日本のヒマラヤ登山者では鬼籍に入られた人が少なくないですが、現在までも長く続けられる秘訣は「臆病だから」とし、「山で死んではならない、背後に残されて悲しむ人がたくさんいるので…」と話され、参加者たちは貴重な言葉に感銘を受けたようでした。続いて、道内の海外山行報告として、カナダのローガン(5959m)、ネパールのナヤカンガ(5857m)、ロブチェイストカ(6119m)の他にカナダのグレートスレイブ湖横断などの報告がありました。

3. 登山研究集会 分科会

11月の登山研究集会では第3分科会（海外登山部門）を開催しました。今回のテーマは「座談会初めてのヒマラヤ体験……初めてヒマラヤ登山、トレッキングに参加した人たちに、出発までの決断や準備、期待、不安、興奮、費用、感動などを話し合ってください。いつかはヒマラヤに…と思っている人たちに実際の生の声が、きっと役に立つと思います。一緒にハラハラドキドキしてみませんか…」で、初めて、もしくは何回か行った6人に思い出いっぱいのお話をさせていただきました。

それに先立って、キリギス登山が千葉未知子さん(スマイル・マウンテン・クラブ)、チュルーイースト峰(6584m)が高橋昂成さん(中央)からの報告がありました。千葉さんは自然豊かで美しいキリギスをスライドで報告し、なかなか行けない場所なので参加者は非常に興味深く聞いていました。また、チュルーの高橋さんからは残念ながら頂上少し前で断念したことと、手の指の凍傷について、その原因さら

にネパールや日本での対応について話されました。

座談会では、それぞれが初めていった経緯、感想などを生き生きと話していただきました。海外へのっかけについては、リタイア後に時間ができた、仲間が企画した、山小屋で美しい写真に感動した、エベレストを見たいなど様々でした。トレッキング中はみなさん大いに楽しまれたようで、いきなりの氷河をまとった高峰に驚いた、高山病は苦しいけど何とか耐えた、村々の生活を垣間見えてよかった、ホテルは快適だった、日本語のできるガイドに安心感があつたなどなど。また、食事についてはネパールの国民食のダルバートがおいしかった、なじめなかったに分かれました。感想については、百聞は一見にしかず行ってみることが一番、経験は宝物、貧しい国のせいか異文化がそのまま伝わり面白い、やっぱり圧倒的な山がすごいなどがありました。みなさん、自分たちが胸をときめかしたハラハラドキドキ感が伝わることを望んでいるようでした。また、ヒマラヤは敷居が高いと思っていましたが、きっかけがあれば意外と低いなどの感想もありました。

4. ネパール山岳地域の5万分の1地図を保管

海外委員会ではネパールの5万分の1の地図を保管しています。山岳全地域を網羅（117枚）していますので、山域やルート研究など希望のエリアを自由に閲覧できます。管理を考えて希望者にはコピーで渡していますが、本体でも可能です。大事に扱ってください。

5. 情報、資料の収集と管理、提供

海外登山の計画書、報告書を誰にでも閲覧できるようにファイルできるように考えています。そのためにも、海外登山の計画書、報告書を必ず海外委員会に提出するようお願いいたします。

2025年度 連盟救助隊 活動報告

隊長：大辻（バビシエ）

副隊長：白石（ピオレ）・井谷（中央）・安藤（登攀）・板橋（北陵）

会計：白石（ピオレ）

2025年、連盟救助隊の出動はありませんでした。各会皆様の遭難対策活動に感謝申し上げます。ただ、下山遅れなどによる出動待機状態はありました。救助隊員への正式な出動体制はとっておりませんが、待機の時間を有効に活用することにより、装備の準備、人員の手配など、急な出動にも対応できるよう時間を作れました。今後も最終的な出動依頼をする前段階でも、救助隊へのご相談がありましたらご連絡ください。

2025年度、春・秋・冬と季節ごとに3つの訓練をおこないました。

6月21日(土)～22日(日) 春季訓練は、例年ですと小樽赤岩にて訓練を行うことが多いのですが、赤岩トイレの改修工事の影響に配慮し、三笠市の林業会社様の敷地をお借りしての訓練をおこなう事ができました。エリア内には崖や沢・川も流れおり訓練ロケーションとしては素晴らしい環境で訓練することができました。今回は、宮城県の連盟から3名、恵庭消防から1名、秀岳荘から1名と、遠方からの参加～救助のプロの参加まで、いろんな方にご参加頂くと同時に、最新装備の紹介とご指導まで頂きました。ご参加頂きました皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。また、我々、救助隊の訓練内容・隊員のスキルも年々上がっているのを実感できる実りの多い訓練となりました。

11月8日(土) 秋季訓練では、札幌市内にある訓練鉄塔を使わせて頂き、ロープワークの基本～応用まで普段とは違う環境での貴重な訓練を行う事が出来ました。

秋の訓練と呼びかけていましたが、訓練日にはかなりの雪が積もっている環境での訓練となり、プレ冬季訓練となりました。エリアを提供して頂きましたオーナー並びに関係者の皆様に感謝申し上げます。

2026年1月7日(土) 冬季訓練については、札幌近郊の長伯稜を予定。

要求の搜索～アクセス～ラッピング～引き上げ下げ～歩行移動など、冬山における救助を想定した訓練を予定。

今年度は、大辻・白石にて北海道消防のレスキューチームに参加し、道内の訓練から岩手の大会まで参加させて頂きました。そこで得た知識経験・人脈などを今後の連盟救助隊訓練に活かすとともに、遭難救助の際には円滑な救助活動がおこなえるよう、全ては要求の為に精進してまいります。

2026 年度 活動方針(総括)

登山の趣旨は「登山は優れたスポーツ文化である」ことを踏まえ、登山にかかる多様なニーズ(海外登山の普及・遭難事故の防止・自然を守り後世に残す)に応える。道央地区連盟は各部・各委員会が前述の趣旨に向かって活動をしていきます。どの山岳団体等に所属していない登山愛好家に「市民登山教室・クリーンハイク・北海道登山研究集会等」をこれまで以上にアピール出来る方策を考えていきます。連盟だよりは内容の充実を図る、ホームページは多種のメリットがある全国連盟のサーバーに移行する。

会員の拡大

会員数は、2025 年度は残念ながら10名の減少になった。近年は毎年、増減を繰り返している状況が続いており、何とか750名をキープできるようにいろいろな方法を考えていきたい。その方策として市民登山教室の交流会で所属会の紹介、登山研究集会で各山岳会のパンフレット等の配布をできないかを模索していく。また、ホームページにおいては連盟だよりの閲覧、所属会へのホームページリンクの推進を図る。

連盟と各山岳会との連携や組織の強化

【情報の発信と共有化】

- ・連盟理事会は対面とオンラインの併用を今まで通り実施していく。
- ・理事会での議事録は各山岳会の代表者・事務局長へメーリングリストで開示していく。
- ・連盟行事等についてもメーリングリストで各会代表者・事務局長に告知し、参加を呼びかける。

山岳事故を無くすための取組の推進

【技術力の向上等】

- ・各山岳会から事故報告・ヒヤリハット報告を収集後、取りまとめたリストを開示して事故防止を促す。
- ・全国遭難対策担当者会議等に該当理事を派遣し、情報収集等を行い技術力等を磨く。
- ・救助隊の定期訓練を春季・秋季・冬季の3回実施する。

登山文化の推進と普及

【第55北海道登山研究集会の開催】

- ・記念講演会は、連盟会員や一般市民にもアピールできる講師の招へいに務める。
- ・各分科会においては、会員を含め多様なニーズに応えるテーマを取り上げる。

自然環境を守る取組の推進

【自然保護関連事業と参加】

- ・クリーンハイク・登山道整備(後志管内を予定)の実施。
- ・美瑛富士携帯トイレブースの清掃パトロールへの参加と高山植物観察の山行を実施

他団体との連携について

- ・道内の山岳団体が構成されている「北海道山岳団体交流会」への参加。
- 本年は上記交流会の幹事団体として、スムーズな運営に取り組む。
- ・空沼岳～札幌岳縦走路整備活動を引き続き行う。

2026 年度 事務局 活動方針

1. 事務局活動

- ①安定した理事会運営を図るため、事務局体制のさらなる強化を目指す。
- ②理事会を引き続き定期的で開催し、多くの理事に出席してもらえるよう理事への呼びかけを図りたい。また、連盟の諸活動がスムーズに実施出来るよう各部との連携・調整を図る。
- ③連盟活動の継続的な運営、効率化のため、連盟作成データの共通利用の促進とその蓄積保存を引き続き図る。
- ④連盟事務所の環境を快適に維持するため、春秋 2 回の掃除を実施する。
- ⑤道央連盟と加盟山岳会の存在と活動を広く一般の方にも知ってもらうため、従来の『連盟だより』発行を休刊とし、読みやすさと手軽さを重視した『道央 YAMATIMES (仮)』を新たにリーフレット形式で発行する。

2. 全国連盟、他連盟、加盟団体、他山岳団体との連絡調整

- ①加盟山岳会との連携については、理事会議事録や全国連盟からの文書等を引き続き速やかに付して連盟全体の情報の共有化をはかる。
- ②2024 年度に始まった空沼岳～札幌岳登山道整備活動により、他山岳団体との関係がより親密になった。引き続き事務局が関係各所と交流を持ち、オール北海道で登山界隈を盛り立てていく。
- ③ 11 月 26 日予定の「第 20 回北海道山岳団体交流会」の幹事として企画運営に取り組む
- ④山岳会未加盟の個別の登山団体との折衝を行い、道央連盟加盟へとつなげる努力をする

3. 連盟ホームページの管理

2026 年度より道央連盟のホームページを全国連盟のサーバーに移行する。メリットとして、広告の非表示、容量の大きい PDF や動画の挿入が可能となる。道央連盟ホームページのドメインについては、全国連盟のサブドメインを利用し、<https://hcwaf.jwaf.club/>となる。

4. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に理事を派遣し、各種事業に参画する。

5. 第 50 回定期総会の運営

例年通り、2027 年 3 月 7 日（予定）の第 50 回定期総会の運営を滞りなく行う

2026年度 組織部 活動方針

1. 市民登山教室

市民登山教室は、市民に安全で楽しい登山を普及するための活動であるとともに、『労山』の仲間を増やす取り組みです。会員の皆様に講師、サポーターとして協力をいただき、受講生との交流を通して各会・クラブの活動を広くPRすることに取り組む。

(1) 第47回札幌市民登山教室

日時・会場	内 容
5月21日(木) 札幌エルプラザ	開講と座学① ・登山の計画と山の危険 ・基本的な登山の装備と選び方
5月28日(木) 札幌エルプラザ	座学② ・地形図の見方 実習登山へ向けてのミーティング
5月30日(土) ※予備日は5月31日(日) 塩谷丸山(小樽市)	実習登山(小樽塩谷丸山) ・登山の実践 ・地形図の使用法など
6月2日(火) 札幌エルプラザ	交流会 実習登山の反省と登山Q&A 各会。クラブのPR

募集人員等 30名 参加費3000円

事業の運営等について

- ① 広報活動 十分な広報期間を確保し、新聞掲載、連盟ホームページ掲載とスポーツ店への案内チラシの設置の広報により、受講者の獲得を図る。
- ② 講義内容 対象を登山の初心者に絞り込み、「登山の基本」を中心に構成する。
読図については、スマホアプリの要素を取り入れる。
- ③ 荒天対応 実習登山の実施日を土曜日とし、翌日曜を予備日とする。

(2) 第35回小樽市民登山教室

日時・会場	内 容
5月12日(火) 18:30~20:30 小樽総合福祉センター	開講と机上学習① ○登山のための準備 ○服装と持ち物
5月19日(火) 18:30~20:30 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 ○実習登山の打合せ
5月24日(日) 実習登山終了後 生涯学習プラザ レピオ	実習登山 小樽天狗山(お地藏さんコース) 交流会

2. 連盟組織調査

例年通り、2026年11月末日時点での会員数等について調査する。

2026 年度 遭難対策部 活動方針

1 遭難対策部 部会・担当者会議の開催

年に数回、遭難対策部員・遭難対策担当者による会議をおこなう。

2 遭難事故の収集・分析・啓蒙

各山岳会からの事故報告書・ヒヤリハット報告書を収集し、毎月の理事会にて報告。

全国連盟から発信する事故一報・死亡事故情報も活用していき、事故の要因・分析・再発防止と啓蒙に務める。

3 第55回 北海道登山研究集会への参画

遭難対策活動に関する第二分科会を担当

登山研究集会論文集の発行

4 全国遭難対策担当者会議への参加

5 第32回 北海道雪崩講習会の共同開催

北海道雪崩講習会開催30年記念誌の発行について

(1) 記念誌編集委員会

編集長：山本（北稜）

委員：小山（ピオレ）、松浦（山遊会）、納谷（百松）、
吉成（雪崩研究会会員）

(2) 発行計画および予算

予算額は190,000円とする。ページ数が増加した場合は、発行部数を調整することで対応する。

発行仕様は、122ページ・300冊とし、内訳は以下のとおりとする。

- ・各会配布：24団体 × 2冊 = 48冊
- ・希望者配布：854名 × 約10% = 85冊
- ・関係者配布：50冊
- ・北海道雪崩研究会分：117冊

なお、本事業の予算は北海道勤労者山岳連盟が支出する。

(3) 発行時期

記念誌は、2025年3月末の発行を予定する。

2026年度 登山文化委員会 活動方針

第55回北海道登山研究集会の開催

1. 日程・会場

- (1) 講演会 : 2026年11月14日(土) 札幌教育文化会館 (中央区北1条西13丁目)
17:45~19:45
- (2) 分科会 : 2026年11月15日(日) 札幌教育文化会館 (中央区北1条西13丁目)
 - ①分科会 午前の部 9:30~11:30、昼 11:30~12:30、午後の部 12:30~14:30
 - ②全体集会 14:45~15:15

2. 内容

- (1) 講演会 : 連盟および所属山岳会の登山文化活動に有用な内容となる講師・演目を検討する。
- (2) 分科会 : 連盟各分科会を開催予定
 - 第1分科会 登山文化部門
 - 第2分科会 遭難対策部門
 - 第3分科会 海外登山部門
 - 第4分科会 自然保護部門

3. 実施体制

- (1) 登山研究集会実行委員会を構成し、連盟理事会のもとに開催の準備および運営を行う。

4. 実施に向けて

- (1) 講演会・・・連盟理事会のもとに、講師候補者の選定をする。
- (2) 論文報告集・・・各分科会のテーマ及び内容の検討を各分科会担当より段取りよく手筈し運営していくことが肝要。
- (3) 懇親会・・・記念講演会講師及び実行委員及び参加希望者にて開催します。

第55回目として参画していく実行委員によって、段取りよく運営を心がける。

宿泊条件などの利便を考慮するため、早期の宿の確保を心がける。(半年前の確保は必須)

2026年度 自然保護委員会 活動方針

本年度実施予定の行事です。皆様のご参加とご協力をお願い致します。

1. クリーンハイク（6月21日第3日曜日）

ポケットサイズのマナー袋350枚を作成し、クリーンハイクに参加した会員の皆さんから一般登山者に配布していただき、マナーの呼びかけをしていただきますので、ご協力をお願い致します（チャック式ポリ袋にはマナーカードとゴミ袋が入っています）。なお、山菜採りの入山者が多い山域にゴミが多いので対象山域として検討していただきたくよろしくお願い致します。マナー袋は2025年9月にビブスと一緒に配布済。

2. 自然学習交流会の企画

下記のイベントを計画します。

（1）高山植物観察山行

①藻岩山の樹林歩きを積極的に楽しむために森のタイプ、森の見方などをさっぽろ自然調査館の丹羽さんの解説で観察会を計画。時期は6月～7月頃を計画。

②アポイ岳におけるハイマツの侵食と高山植物の減少について観察会を計画。

時期は6月27日（土）～28日（日）を計画。

前泊のテント組と日帰り組の2つのグループで実施。

（2）美瑛富士携帯トイレブースの清掃パトロールの参加を計画。

第1案：8月29日（土）～30日（日）。国設白金野営場でヘビン泊を計画。

天候不良の場合は、別途日程を検討する。

（3）登山道整備 塩谷丸山～天狗山縦走路穴滝コースの笹刈を計画。

第1次笹刈 6月6日（土）穴滝コース。

第2次笹刈 10月3日（土）自然の村登山口コース。

天候不良の場合は、別途日程を検討する。

3. 登山研究集会 第4分科会（自然保護部門）

講演会を計画。

日時：11月15日（日）12時30分～14時30分を計画。

講演会のテーマは未定。

以上

2026年度 海外委員会 活動方針

1. 各会から海外委員を選出し、海外委員会を構成、運営します。
2. 海外登山に関する情報、資料の収集と管理をし、今後の各会、会員の海外登山活動が一層活発になるよう情報を提供します。そのためには、各会が海外登山、トレッキング、フリークライミングを含めて計画書を道央連盟海外委員会に提出することをお願いします。報告書は全国で統一化されたものを使用してください。
3. 2026年度北海道登山研究集会の「第3分科会 海外登山部門」の内容を検討し、資料作成や運営を担当します。
4. 会員の海外登山への関心を高めるため、講演会等の企画に取り組みます。隔年ごとに開催していましたが、コロナ以降は検討中のままの状況が続いています。
5. 各山岳会の枠を超えて、道内で唯一海外登山を研究している任意団体である北海道海外登山研究会の開催を支援し促進します。

2026年度 連盟救助隊 活動方針

1 日常活動

各会からの情報収集・各隊員の体調体力管理

2 組織レスキュー・個人スキルの訓練

連盟救助隊訓練・各会訓練・個人訓練・外部機関による訓練など

3 幹事会の開催

年に数回 救助隊幹事・隊員が集まり協議をおこなう

4 救助隊装備の充実と適切な管理・更新・購入検討

適時に棚卸しをおこなう 装備在庫状況・状態確認・今後の必要装備を検討

5 定期訓練

春季救助訓練 2026年6月頃を予定

秋季救助訓練 2026年10月～11月頃を予定

冬季救助訓練 2027年1月頃を予定

6 全国救助技術交流集会への参加

全国連盟が主催する 各救助技術の情報交換・更新する集会への参加

空沼岳万計山荘友の会の活動について

1995年に空沼岳万計山荘友の会が活動をはじめてから今年で32年目になります。

財政難から空沼岳万計山荘の維持が困難になる中で、山荘所有者の札幌営林署（当時）は札幌市や大学、社会人山岳団体等に委譲を働きかけました。しかし、いずれからもこの申し入れを断られ、空沼岳万計山荘は存亡の危機に立たされました。

このような状況の中で、道央地区勤労者山岳連盟加盟各会の会員から、登山愛好者や札幌市民に親しまれている万計山荘を守ろうとの声が広がり、1995年5月に連盟傘下各会の有志や市民登山愛好者により「空沼岳万計山荘友の会」が結成され、札幌営林署（当時）との間で管理委託の契約を結び、山荘の管理を開始しました。以来31年、友の会は、道央連盟の支援も受けながら、市民に愛される空沼岳万計山荘をめざして活動してきました。

2000年には、雪圧による倒壊の危機に立ち至っていた山荘の土台とトイレの改修、2006年には屋根の葺き替えをどちらも登山愛好者や市民から募った募金により実施しました。また、2003年には全道の山小屋管理に携わっている団体・個人が集っての「北海道山小屋フォーラム」の開催の中心となるなど幅広い活動を行ってきました。

毎年のように起こる大雨等々による山荘への連絡用林道の崩壊、あるいはまた、トイレのくみ取りバキューム車の廃止問題などの種々の頭の痛い事態も発生してきましたが、その都度、石狩森林管理署あるいは札幌市に相談・要請を行うなどし、何とか解決してきました。

山荘内のポンプの高性能化、山荘入り口の風除室・山荘前のテラスの設置など、登山者が使いやすい山荘をめざしての努力も続けてきました。

また、11年前には1年間の準備の末、万計山荘友の会の20周年記念誌「雲上の時をつなぐ」を発刊しました。

昨年度（2025年度）は30周年を祝う祝賀会を開催し、30周年記念誌「雲上の時をつなぐⅡ」を発行しました。祝賀会には石狩森林管理署長をはじめ、札幌山岳連盟会長、北海道山岳スポーツクライミング連盟会長、道央地区連盟会長や各山岳会の方々、万計山荘友の会会員など70数名の参加で盛大に開催することが出来ました。

空沼岳～札幌岳縦走路の開通により、登山者が多くなってきました。特に、若い登山者の増加が際だって目立ち、各種団体の利用も増えてきており、万計山荘の役割はよりいつそう高くなるものと思われます。道央連盟は、全国的にも珍しい管理形態をとって活動している「空沼岳万計山荘友の会」を支援してきました。これからも、連携を図りながら札幌市民や登山愛好者の登山要求に応えていきます。

2025 年度の主な活動

- 6月1日～10月31日の期間の土・日の山荘管理
- 5月22日 万計山荘友の会 30周年祝賀会・第31回総会（74人参加）
- 6月7日～8日 第31回 万計山荘開き（40人参加）
- 9月6日～7日 山荘一斉修繕（12人参加）
- ※札幌登山道整備連絡協議会による笹刈りで札幌岳～空沼岳縦走路の整備
- 10月18日～19日 山荘仕舞い（19人参加）
- 2月7日～8日 屋根の雪下ろし（23人参加）

2026 年度の活動について

「空沼岳万計山荘友の会」と協力して今後も活動します。引き続き、空沼岳万計山荘を守るため、友の会の活動を積極的に支援していくとともに、第32回友の会総会、第32回山荘開き等に参加します。引き続き、森林管理署や道、札幌市に山荘存続のための環境整備を求めていきます。

2026 年度の主な活動予定

- 6月～10月の期間の土・日の山荘管理
- 5月27日 第32回万計山荘友の会総会
- 6月13日～14日 第32回万計山荘開き
- 9月5日～6日 一斉修繕日、薪運び上げ
- 10月17日～18日 山荘仕舞い
- 2月6日～7日 屋根の雪下ろし

■資料1

北海道道央地区勤労者山岳連盟規約

第一章 総則

第一条 名称

当連盟は「北海道道央地区勤労者山岳連盟」と呼び事務所を札幌市東区北12条東1丁目3-12 ノースハウス12103号に置く。

第二条 加盟

- (1) 当連盟は北海道道央地区の登山、ハイキング団体によって組織され日本勤労者山岳連盟に加盟する団体で組織する。
- (2) 当連盟は北海道内の「北海道道北地区勤労者山岳連盟」「北海道道東地区勤労者連盟」と共に『北海道勤労者山岳連盟』を組織する。
- (3) 日本勤労者山岳連盟の「趣意書」及び「規約」を承認して、当連盟の承認を受けた登山団体は加盟団体となる。
- (4) 当連盟は必要と認めたときは、個人加盟をすることができる。

第二章 目的と活動

第三条 目的

当連盟は登山、ハイキングを広く一般勤労者のものとし、勤労者の立場に立脚した正しい登山、ハイキング観、登山、ハイキング理論、及び登山、ハイキング技術の普及と向上をはかり登山、ハイキング文化を充実、発展させる事を目的とする。

第四条 連盟の活動

当連盟は前条の目的を遂行するため次の活動を行う。

- (1) 未組織の登山者、ハイカーを連盟に組織する活動及び未組織地域に連盟の組織を広げる活動。
- (2) 全国的・全道的な活動の内容を加盟団体に正しく伝え、加盟団体相互の活動交流を援助する。
- (3) 山岳遭難を防止する活動を行う。
- (4) 海外登山を普及する活動を行う。
- (5) 山岳の自然を保護する活動を行う。
- (6) その他、目的遂行に必要な活動を行う。

第三章 機構

第五条 機関

- (1) 当連盟は機関として「総会」「理事会」「役員会」「役員（理事長・副理事長）選考委員会」を置く。「役員（理事長・副理事長）選考委員会」についての運営規定は別に定める。
- (2) 当連盟に専門部として「事務局」「組織部」「遭難対策部」を置くことができる。
- (3) 当連盟は委員会として「登山文化委員会」「自然保護委員会」「海外委員会」を置くことができる。
- (4) 当連盟は「救助隊」を組織する。運営規定は別に定めるものとする。

第六条 総会

- (1) 総会は毎年一回、会長が招集して開催する。
- (2) 総会は次の事項を審議し決議、承認を得なければならない。
1 活動報告 2 活動方針 3 予算、決算及び会計監査報告 4 役員の選出
5 規約の改定 6 その他、運営に必要な事項
- (3) 総会は代議員と役員で構成され、代議員は加盟団体より選出する。
- (4) 役員の任にある者は代議員に選出する事は出来ない。
- (5) 総会は委任状を含む代議員の三分の二以上の出席で成立する。
- (6) 選出された代議員が出席出来ない場合は委任状をもって出席とする。

- 43 -

- (7) 決議は委任状を含まない出席代議員の過半数の賛成を必要とする。
- (8) 規約の改廃は委任状を含まない出席代議員の三分の二以上の賛成を要する。
- (9) 会長は必要に応じて「臨時総会」を招集することが出来る。又、加盟団体の三分の一以上の団体から要請があった場合は、「臨時総会」を開催しなければならない。

第七条 代議員

代議員の選出は総会の前年の十一月末日をもって、会員数二十名までは二名、それ以上の会員数十名につき一名とする。

第八条 理事会

- (1) 理事会は総会に次ぐ決議機関であり、同時に連盟の執行機関である。
- (2) 理事会は総会の決議にもとづいて理事長、副理事長、理事で構成し、定期的に会議を開催する。

第九条 役員会

- (1) 「役員会」は連盟の活動上重要な問題について、総会や理事会が開催不可能な場合に開催する決議機関である。
- (2) 「役員会」は会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長で構成する。
- (3) 「役員会」は会長が招集する。

第四章 連盟の役員

第十条 役員の構成

- (1) 当連盟に役員として会長 1 名、副会長若干名、理事長 1 名、副理事長若干名、理事者若干名、会計監査二名を置く。
- (2) 当連盟は顧問を置くことが出来る。

第十一条 役員の役割

- (1) 会長は当連盟を代表し、その活動を総理する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある場合は代行する。
- (3) 理事長は理事会の招集を行い、日常活動を執行する。
- (4) 副理事長は理事長を補佐し、かつ理事長に事故ある場合は代行する。
- (5) 理事は総会の決定事項に従い、連盟業務の執行にあたる。
- (6) 会計監査は当連盟の会計を監査し、総会に報告する。

第十二条 役員の選出

- (1) 会長、副会長は総会で推挙し、他の役員は選出する。
- (2) 任期は次期定期総会までとし、再選は妨げない。
- (3) 役員に欠員が生じた場合は、理事会は補充を行うことが出来る。その任期は前者の残り期間とする。

第五章 財政及び会計

第十三条 会計

- (1) 当連盟は一般会計及び特別会計を設けることが出来る。
- (2) 当連盟の経費は、連盟費、事業活動、その他をもってあてる。
- (3) 連盟費は前年 11 月末日現在の構成員数に 1 ヶ月 340 円を乗じた額とする。
- (4) 連盟費は原則として 3 ヶ月ごとの前納とする。
- (5) 個人加盟者の連盟費は年払い 5,000 円とする。

第十四条 会計年度

当連盟の会計年度は 2 月 1 日に始まり、1 月末日に終わる。

第六章 その他

第十五条 その他

理事会はこの規約に定められていない問題について、規約と趣意書の精神にもとづき処理することが出来る。

付則

- (1) 当連盟の設置は 1978 年 3 月 26 日である。
- (2) 当連盟の地域は石狩、渡島、桧山、胆振、日高、空知の各（総合）振興局管内とする。
- (3) 理事会の承認のもとにつくられた準備会は、当連盟に仮加盟することができ、その連盟費は第 13 条 3 項にもとづく額とする。
- (4) 特殊な組織形態をもつ山岳団体の連盟費は、その実情を勘案して理事会で決定することが出来る。
- (5) 当規約は 1995 年 3 月 6 日より実施する。
- (6) 2005 年 3 月 6 日一部改定（第 5 条）
- (7) 2008 年 3 月 2 日一部改定（第 13 条）
- (8) 2009 年 3 月 8 日一部改定（第 5 条）
- (9) 2012 年 3 月 4 日一部改定（第 1 条）
- (10) 2015 年 3 月 15 日一部改定（第 1 条、付則）
- (11) 2017 年 3 月 5 日一部改訂（第 5 条）
- (12) 2024 年 3 月 2 日一部改訂（第 1 条）

役員選考委員会運営規定

- (1) 役員（理事長・副理事長）選考委員会は加盟山岳会・クラブの代表とする
- (2) 役員（理事長・副理事長）選考委員は連盟会長が委嘱する。任期は次期定期総会までとする。
- (3) 役員（理事長・副理事長）選考委員会は、理事長、副理事長を選考し、総会に報告する。

■資料 2

北海道道央地区勤労者山岳連盟 救助隊規定

第 1 章（名称および所在地）

第 1 条 この隊を道央地区勤労者山岳連盟救助隊（以下、救助隊）と呼ぶ。

第 2 条 救助隊の事務所を道央地区勤労者山岳連盟内に置く。

第 2 章（目的と活動）

第 3 条 救助隊は救助活動を目的とする。

第 4 条 救助隊は次の活動を行なう。

搜索、救助、搬出活動。

救助訓練及び救助技術の研究。

その他。

第 3 章（組織、機関及び役員）

第 5 条 救助隊は、道央地区勤労者山岳連盟（以下、地区連盟）に加盟する山岳会の会員をもって構成する。

第 6 条 救助隊に役員会を置き、次の役員をもって構成する。

隊長 1名

副隊長 若干名

幹事 若干名

第 7 条 隊長は地区連盟理事とし、役員会で決定、総会で確認する。

2. 幹事は隊員の互選による。

3. 副隊長は幹事の中から隊長が指名する。

第 8 条 救助隊の運営は役員会が行なう。

第 4 章（隊員の任命及び解任）

第 9 条 隊員は各会の推薦により隊長が任命する。

第 10 条 隊長は隊員がやむを得ない事情がある場合、又は隊員として適当でないと認めるときは解任することができる。

第 5 章（出動）

第 11 条 1.道央地区連盟理事長（以下、理事長）は、各加盟山岳会代表者の要請により、救助隊を

出動させる。

2. 加盟外の団体及び個人からの要請の場合は、理事長が出動の決定をする。

第 12 条 救助隊出動に際しての必要経費は、全て依頼者が支払うものとする。

第 6 章（財政）

第 13 条 救助隊の財政は地区連盟の特別会計とする。

1982 年 3 月 7 日 執行

2006 年 3 月 5 日 一部改正

2017 年 4 月 1 9 日 一部改正

2024 年 12 月 22 日 一部改正

■資料 3

救助隊内規

第 1 条 隊員は次のような権利と義務を有する。

救助隊の活動に積極的に参加する。

常に所在を明らかにしておく。

隊員は山岳保険に加入しなければならない。

第 2 条 規定第 5 章の隊員の任命・解任は、役員会の決定により隊長が行なう。

第 3 条 救助隊出動に際しての必要経費とは、概ね次のようなものである。

交通費、通信費、宿泊費、食費、機材費、日当など。

出動の際に加入する保険など。

日当は基本的に夏山一日 10,000 円、冬山一日 15,000 円とする。状況により、救助隊幹事会と理事会にて検討する。

第 4 条 救助活動のための出動は次により行なう。

各会の代表者から理事長への依頼（要請）による。

救助隊の出動範囲は道内に限る。

救助要請を受けた場合、理事長は隊長を通じ、隊員に対して待機命令を出すと共に出動命令を出す。

救助活動は、原則として医療機関などに引き渡すまで隊が責任を持って行なう。

理事長は必要と認めた場合、各会に救助活動要員の出動を指示することができる。

救助に必要な装備は、原則として救助隊で準備する。

